「復活の証人」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ルカによる福音書２４章３２節

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　森島 牧人 牧師

　イースターおめでとうございます。台の上にきれいな玉子が置かれていますが、これはみなさんもよく知っている「イースターエッグ」です。玉子の殻を割って命が出てくるということから、主イエスが死の中から復活されたことを表しています。

　今日の聖書・ルカ福音書の２４章の中には「ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタデｲオン離れた（一日で行ける距離）エマオという村へ向かって歩きながら、この一切の出来事について話し合っていた。話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。」（24：13－15）と書かれています。突然一緒に歩き始められたのが復活された主イエスだと分からない二人は、その人にその日の出来事、主イエスが亡くなられて三日目の早朝、女の人たちが香料を持って墓地へ行くと墓に主の亡骸はなく、代わりに天使が現れて「イエスは生きておられる」と言ったこと、その女の人たちの話を誰も信じなかったことなどを話します。主イエスはそれを聞き「ああ、物分かりが悪く心の鈍い者たちよ。」と嘆かれ、この出来事のすべてを預言者が預言していたこと、聖書全体にわたって御自分のことが書かれていることを説明されたのでした。

　その聖書の第一巻は「創世記」で、その１章には神が御自分に模って（似せて）人間の男女をお造りになったこと、３章にはその二人が蛇の誘惑に負けて、神様が禁じておられた木の実を食べてしまい、園から追い出されてしまったことが書かれています。つまり、神様のたった一つの言付けを破るという罪を犯した人間は、良い事も悪い事も出来る者となってしまったのです。悪い事も出来る者となって増えて行く人間はこの後どうなるのでしょう。

　続いて創世記１８章には、ある時神様はアブラハムという信仰の厚い人のところへ現れ、「悪いことばかりしている人々の町を滅ぼす」と言われたとあります。驚いたアブラハムは「町には正しい人もいるはず」として神に交渉を始めます。まず「５０人正しい人がいたら町を赦す」との神の言葉をいただいたアブラハムでしたが、それを見つけることが出来ず、４５人，４０人とその人数を下げて行き、とうとう「10人でも許す」という約束までいただくのですが、しかしその人々も見つからず、町は神様によって滅ぼされてしまったのでした。人間はどうなって行くのでしょう・・・。

　しばらくして、エレミヤという預言者が登場します。「預言者」は「予言者」とは違って神の言葉を預かってみんなに伝える人のことです。エレミヤは「たった一人でも正義を行い、真実を求める者がいたらエルサレムを赦そう」との神様の言葉を人々に預言しますが、そんな者は一人もおらず、エレミヤは涙して悲しみます（エレミヤ5：1）。さあ、人間はどうなってしまうのでしょう。

　全66巻を通してイエスのことが書かれている聖書ですが、その新約のヨハネ福音書に「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」（3：16）とあります。神様に模られて造られたにもかかわらず、人間は最初から神様を信じて神様のために生きることは出来ませんでした。これを御覧になっていた神様はついに神様の方から、正義を行い愛を生きる人間として地上に独り子を与えてくださることになったのです。それがクリスマスです。馬小屋でお生まれになったみどりごが、罪深い私たちの身代わりになって神様の罰を受けてくださる方になられたのです。これが主イエス・キリストです。コリントの信徒への手紙の中でパウロは、神様の愛を本当に生きられたのが主イエス・キリストであり、その愛の生き方は決して滅びることはないと言っています。

　ゴルゴタで十字架にかかってそれを私たちに教えてくださった主イエス・キリストは、罪を負って亡くなってくださっただけでなく、３日後に復活して、「主イエスの十字架の死と復活を信じる者はすべて赦そう」との神様の御言葉を弟子たち、私たちに伝えてくださいました。これがイースターです。ですから私たちはハッピーイースターと言うのです。　　　　　　　　　　（説教要約　羽入田悦子）